

2017年2月22日

負荷の自己チェック web 管理の試行実験結果報告書

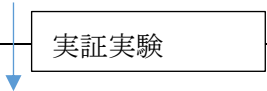
NPO法人木野環境

1. 目的

当事業は、エコアクション21の認証事業者が必要な「環境への負荷自己チェックシート」を web 上で管理する。また、環境活動レポートの公開も自動で行うことができるようにし、事業者の負担をなくすことを目的としている。

2. 実証事業の概要

実証実験では、(1)仕様の設計、(2)プログラムの開発、(3)実証実験、(4)ヒアリングで行った。

9月	・当事業の計画
10月	・仕様確定 ・プログラム
11月	・プログラム修正
12月	 実証実験
1月	
2月	・ユーザーへのヒアリング ・課題の抽出

3. 制作物

下記のページを作成した。

- ・ログイン画面
- ・メニュー画面
- ・設定画面
- ・入力画面
- ・公開画面



ログイン画面



メニュー画面



入力画面

4. 実証事業

このプログラムを使い、ユーザーに2ヶ月間の入力を依頼した。

6. 費用

当事業の費用を下記に示す。

収入		支出		
補助金	300,000	社内プログラマー	15人日	520,000
自己資金	520,000	プログラム外注費	1式	200,000
合計	820,000	サーバ費用	1式	100,000
			合計	820,000

7. 課題

当事業では、プログラムが十分確立されない中であつたが、実証事業ユーザーの意見などを踏まえ、下記の課題が明確になった。

<目標値の管理>

目標値についても管理できると良いが、目標設定の方法が多様化しており、開発が難しい。また、開発を行うと、自由に目標設定されない懸念もある。

<各組織にあわせられる拡張性の改善>

電気の使用などについては、各組織や電力会社により契約が多様化しており、複雑な入力項目に対応する必要がある。また、エコアクション21では、係数の固定化を推奨しているが、実態の係数を入力できる仕組み、さらに年度途中で係数変更ができる仕組みが求められる。

<操作性の改善>

操作画面は、入力月を指定した後、入力月のみが表示されるなど、より簡易に入力することが重要である。

<入力のお知らせ機能>

月に1回の入力時期が、メールなどでお知らせされるリマインド機能が必要である。実態として、審査の少し前に12ヶ月分のデータを入力している組織があり、経営と絡めた分析のためには、月に1回の早期の入力が重要である。

<自動入力機能>

近年、スマートメーター化が進んでいる。スマートメーターの場合、電力会社によっては、web上でデータ確認できるサービスもあり、それらと連携することにより、自動入力を実現できる。

<スマートフォン>

パソコンが使えず、スマートフォンのみ使えるというユーザー層もあり、スマートフォン版についても検討する余地はあるが、ニーズは今のところ少ないと考えており、プライオリティーは低い。

<分析ツールの充実>

他社との比較、前年度との比較がグラフなどで示され、経営分析に使えるツールの開発が必要である。